

■ 学校の共通目標

<b>授業作り</b>	<b>重 点</b>	児童が自ら課題を見付け、自ら追究し、自ら表現する学習活動に重点を置いた指導を行う。	<b>中 間 評 価</b>	授業のめあてを明確にし、体験的な学習を通して、指導をしていく。	<b>最 終 評 価</b>	
<b>環境作り</b>		道徳を柱として、思いやりの心を育む学級・専科経営を行う。		道徳を柱として、日常生活の中でも思いやりの心を育むことができるように、教職員全員で臨む。		

■ 学年の取組内容

学年	教科	学習状況の分析 (10月)	課 題 (10月)	改善のための取組 (10月)	最終評価 (2月)
1	国語	<p>学 ひらがなの読み書きはほとんどの児童ができるが、濁点や半濁点になると書けない児童はいる。音読では、言葉のまとまりに気を付けて文章を読むことができる児童は多いが、1割の児童が1文字ずつ読み、物語の全体を把握することができていない。</p> <p>学 黒板の板書を映すことはほとんどの児童ができる。しかし、促音、助詞の使い方が不十分な児童が3割ほどいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>濁点、半濁点の使い方、文章の促音、助詞の使い方に課題がある。</li> <li>片仮名や漢字の書き取りでは、文字のバランスが整っていない児童が2割ほどいる。</li> <li>音読では、文字をとばしたり、行をとばしたりする児童が1割いる。</li> <li>気付いたこと、感想を短い文で書くことができない児童が3割以上いる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ひらがな、片仮名、漢字の練習では、宿題や授業を中心に添削指導を行い、日々指導していく。</li> <li>デジタルドリルを使って個に応じた指導をする。</li> <li>宿題として「あのねノート」を週に1回出し、書く機会を多くする。</li> <li>文章を書く単元では、スモールステップで書くことができるようにする。</li> </ul>	
	算数	<p>学 10以内の加法減法については、ほとんどの児童ができる。繰り上がりのある計算では、10のまとまりにすると、足される数の分解でつまづきが見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>加法・減法の計算で指を使って解いている児童が1割いる。</li> <li>加法・減法の解き方で、アルゴリズムに沿って解くことができない児童が1割いる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>宿題や毎日計算練をして、基礎基本を徹底する。</li> <li>授業の終末に、本時で学習した内容をデジタルドリルを使って復習し、定着を図る。</li> <li>計算の仕方を考える場面を多く設け、図や言葉で表し、共有する学習を意図的に取り入れる。</li> </ul>	

学年	教科	学習状況の分析 (4月)	課 題 (4月)	改善のための取組 (4月)	中間評価・追加する取組 (10月)	最終評価 (2月)
2	国語	<p>学 ひらがなの読み書きは、ほとんどの児童が習得している。かたかなや漢字の読み書きが十分に定着していない児童がいる。拗音や撥音が正しく表記できない、小作文において句読点が使えない、誤字脱字が多い児童がいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>かたかな・漢字・拗音・句読点等を、文や文章の中で適切に使用することに課題がある。</li> <li>気が付いたこと・考えたことを短い文章で表す力の定着が十分でなく、単語表記になりがちな児童がいる。</li> <li>新出漢字の学習では、一斉指導で画数を数えながら繰り返し学習を実施するも正しい字形で文字を書けない児童が数名みられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>視覚優位の児童に配慮した教材を活用して、文章の中で正しく仮名や漢字を活用できるよう継続指導する。</li> <li>各教科の学習で振り返りを書く活動をしたり、宿題で週に2回、小作文の課題を出したりして、書くことに慣れ親しませる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>繰り返し文章を正しく書く指導を繰り返すも、文を組み立てること、仮名や漢字、句読点を正しく使うことが苦手な児童が多い。定形文を視写する活動、教員の添削を受け、書き直したり、正しい文に触れたりして、学ぶ機会を増やしていく。</li> <li>漢字学習は苦手な児童が一部見られるが、新出漢字が定着している児童も多く見られる。今後、さらに、既習漢字を正しく使った文を書けるように指導する。</li> </ul>	
	算数	<p>学 数の仕組みの理解が不十分で、基礎計算力に課題がある児童がいる。</p> <p>学 量感が獲得できておらず、単位換算を伴う問題解決を苦手とする児童が多い。</p> <p>学 図などを使って問題場面を表現し、それをもとに式や計算の仕方を説明する能力が身に付いていない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>数の仕組みの理解が不十分な児童がいる。また、基礎計算力に課題のある児童(指を折らないと一位数同士の計算ができない等)がいる。</li> <li>アナログ時計が読めない児童がいる。また、単位換算を苦手とする児童が多い。</li> <li>問題場面を図に表すなどして把握することが十分にできない児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元の学習内容と関連付けて、数の仕組みや基礎計算の復習課題に取り組ませる。また、タブレット端末のデジタルドリルを利用して基礎・基本の定着を図る。</li> <li>日常生活の中で、アナログ時計を読む活動を意図的・積極的に取り入れる。</li> <li>単元の学習指導と生活科の学習と関連付けて指導し、長さやかさの単元に親しませる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>長さの学習、形の学習、計算の学習等を非地上生活に活かしつつ、習熟度を上げていく子どもが見られるようになった。</li> <li>学級内の学力差が大きいため、それぞれの児童に合う補助ノート、プリント、デジタルドリル等を活用して、学習時間が全員にとって有意義な時間になるようにし全員の習熟を図っている。</li> <li>家庭学習もデジタルドリルを活用して習熟を図ってきたい。</li> </ul>	

3	国語	<p>調 教科の正答率は全国の正答率とほぼ同じであるが、「話すこと・聞くこと」では、全国の正答率では、3.5ポイント下回っている。また「書くこと7」では、3ポイント以上下回っている。</p> <p>学 漢字の学習で、正しい漢字を使うことが十分ではない。</p> <p>学 作文では、段落や句読点、かぎの使い方が十分ではない。</p> <p>学 文章を読み、何が書かれているか大体的内容をつかむことはできる。深く意味を考えながら、想像力を働かせて読む力がまだ十分に身に付いていない児童が多い。</p> <p>学 話すこと・聞くことが不十分なので、繋がりのある文章を書いたり、順序よく話したりすることに、苦手意識をもつ児童が多い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>既習漢字を正しく使う力が必要である。</li> <li>作文の書き方の復習が必要である。</li> <li>課題文を読むとき、筆者の言いたいことを考えて読み、場面を想像して深く読むことに課題がある。</li> <li>話すこと・聞くことにおいて、特に、聞くことについて相手が何を伝えようとしているのか考えながら聞く力に課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>休み時間や放課後で宿題の漢字の直しを行ったり、定期的に漢字の小テストを行ったりすることで、漢字の定着を図る。作文指導で、文章の書き方についての理解への定着を図る。</li> <li>国語の学習を毎時間振り返りで、文を読んで、気が付いたこと、不思議に思ったこと、わかったことを書かせる。</li> <li>話を聞くときの視点を明確に示すことで、相手の話の大事なところを意識して聞くことができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新出漢字を正確に書けるように練習、確認テストを繰り返し、定着を図るとともに、家庭でもドリルパークの活用することで、漢字の意味を理解し、文章を書くことができるようにする。</li> <li>話の中心が明確になるように話の構成を組み立て相手に伝わるように文に書いたり、話したりすることができるようにする。</li> </ul>	
---	----	---	---	---	--	--

	算数	<p>調教科の正答率は、全国の正答率を4ポイント上回っているが、正答率の分布率をみると、二極化がみられる。</p> <p>学乘法九九や足し算、ひき算の計算を正確に行えず、苦手意識をもつ児童が多くみられる。時刻と時間の計算も十分ではない。</p> <p>学繰り上がりのある計算はほとんどの児童が理解できているが、繰り下がりのある計算は、理解が十分でない児童がみられる。</p> <p>学文章を読んで、立式して答えを求めることはできるが、図や言葉に表現することに課題の児童が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乗法九九の7の段以上の習熟に課題が残る児童もいる。</li> <li>・「たし算とひき算の筆算」では、4桁ー4桁の計算で繰り下がりのある減法について、計算の仕方が十分に身に付いていない児童がいる。</li> <li>・自分の考えを図や言葉に表現することに課題がある児童が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・休み時間や放課後などを活用し、乗法九九（特に7・8・9の段）の習得を図る。日常生活の中で、時刻と時間を使うような場面を意識的に設定する。</li> <li>・休み時間や放課後などを活用し、2桁ー2桁の繰り下がりのある減法について、プリント等を活用して、繰り返し復習することで、定着を図る。</li> <li>・図や式、言葉を使って表現する活動を多く設け、解決の見通しをもたせるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・休み時間や放課後など計算ドリルやドリルパークを活用し、単元ごとの復習を繰り返し、内容の定着を図るようにする。</li> <li>・2～3位数に2位数をかける乗法の計算の定着を図り、正確に計算できるように練習させ、計算の仕方を言葉で説明できるようにする。</li> <li>・図形の特徴と作図の方法を理解させ、作図の練習に取り組ませる。</li> </ul>
4	国語	<p>調教科の正答率は、全国の正答率とほぼ同じ正答率となっているが、新宿区の正答率では、約4ポイント下回っている。領域別正答率では、「書くこと」が2.5ポイントも下回っている。</p> <p>学第3学年までの配当の漢字を読むことに関しては概ねできているが、文章を書く際に、既習漢字を使えないことがよくある。</p> <p>学物語文や説明文において、概ねすべての児童が登場人物の心情や文章の内容を読み取ることができていた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章を書くときに既習漢字を使って書く力を付ける必要がある。また、字形や書き順を意識して文字を書く習慣も身に付ける必要がある。</li> <li>・第3年生までの配当漢字を書いたり、それを文の中に用いたりすることにおいて課題が見られる。</li> <li>・話すこと・聞くことにおいて、内容を聞き、理解することに課題が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・週末の家庭学習で日記に取り組ませ、ノートの添削をし、間違いを正しく書き直すことで正しく漢字を使う力の定着を図る。</li> <li>・デジタルドリルの活用することで、問題を解く経験を多く積ませる。</li> <li>・漢字小テストを定期的実施することを通して、間違えた問題は、繰り返し練習させ習熟を図る。</li> <li>・学習中の発表や友達との話し合い活動の中で、ノートに自分の考えを整理する時間を重視し、発表させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、日記や小テストを定期的に行い、その習得を見取り、指導していく。</li> <li>・物語文や説明文の読み取りでは、大切なところにサイドラインを引きながら読むことで、視点にそった読みができるようになってきている。</li> <li>・相手に伝えたい内容を整理して話し合えるように継続して指導する。</li> <li>・漢字ドリルと併用してデジタルドリルを活用することで前学年までの漢字の習熟を図っていく。</li> <li>・他教科においても話し合いの進め方、相手への伝え方の学習を活かして話し合いを進められるように指導していく。</li> </ul>
	算数	<p>調教科の正答率は、全国の正答率を上回り、領域別の正答率も全て上回っている。しかし、正答率分布率では、二極化がみられ、全体的な底上げが求められる。</p> <p>学自分の考えを図や式、言葉に表現することに課題がある児童が見られる。</p> <p>学乘法九九やたし算やひき算の計算が正確でなく、苦手意識をもつ児童が多く見られる。</p> <p>学定規を使って線を引いたり、作図をしたりする技能が身に付いていない児童が多く見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えを図や式、言葉に表現することに課題がある児童が見られる。</li> <li>・乗法の九九やたし算やひき算の計算を正確に行うことが課題である。</li> <li>・定規を使って正確に線を引いたり、三角定規やコンパスを使ったりする技能に課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図や式、言葉を使って表現する活動を多く設け、解決の見通しをもたせ、自力解決させる。</li> <li>・家庭学習において、デジタルドリルを活用し、計算の正確さを向上させる。</li> <li>・日頃の授業の中で、定規を使って正確に線を引いたり、分度器やコンパスを使って作図したりして、作図技能を向上させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自力解決したことを友達に分かりやすく説明する指導を重視し、自己だけでなく学習集団の理解を深めていく。</li> <li>・家庭学習だけでなく、単元の終わりや学期末などにおいてもデジタルドリルを活用して習熟を図る。</li> <li>・定規を使って正確に線を引いたり、分度器やコンパスを使って作図したりするなど、継続して指導することで、作図技能を向上させる。</li> </ul>
5	国語	<p>調教科の正答率は、全国の正答率と同じ水準である。領域別では、「情報の使い方」では、6ポイント以上上回る。</p> <p>調文章を書く力が全項目において全国平均を7ポイント下回っている。</p> <p>学漢字の定着に個人差がある。</p> <p>学自分の思いや考えを話したり、友達の意見を聞いたりする力が不足している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・構成を考えたり、事実と考えを区別して伝えたい事だけを書いたりする指導が必要である。</li> <li>・日常的に漢字を使わせて慣れさせる必要がある。</li> <li>・語彙力を高め、自分の考えの主張と、相手の考えへの共感や反論を指導する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマを設け、分量を指定したり、条件を設けたりして「書くこと」に慣れさせていく。</li> <li>・辞書を引くくせをつけ、分からない漢字や間違っている漢字を自分で訂正できるようにする。</li> <li>・話し合い活動を多く取り入れ、環境を整えていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的をはっきりさせて、日記を書かせることで、文章の構成を理解させる。また、書く分量を指定し、目標値を設定する。</li> <li>・熟語調べや習った漢字を活用する授業を構成し、分からない字をその場で調べられるようにする。</li> <li>・話し合いがスムーズに行えるよう、思考ツールを活用させる。</li> <li>・物語文の際は、それぞれの場面ごとに小見出しを付けさせ、内容の大体をまとめられるようにする。</li> </ul>
	算数	<p>調教科の正答率は、全国の正答率よりも5ポイント上回る。また、領域別でも全ての領域で全国を上回っている。</p> <p>学自分の考えを表現することに課題が見られる児童が3割程度見られる。</p> <p>学筆算（特にわり算）の位取りができず、苦手意識の高い児童が2割程度いる。</p> <p>学公式を知識として知っているが、それまでの過程を考える力が乏しい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・考えをもちえず、考えることから逃げてしまっている児童へ支援が必要である。</li> <li>・計算をめんどくがり、暗算でやってしまうことでミスが多く発生している。</li> <li>・公式にたどりつくまでの思考力が弱い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヒントカードを活用し、自力解決を促す。</li> <li>・途中式の必要性を指導し、必ず書くようにする。</li> <li>・公式を見つけるまでの過程が、他教科やその後の学習に生かせることを指導していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・考えの手だてとなる文に線を引きかせ、分かっていることと求めることをはっきりさせる。</li> <li>・計算方法の理由を説明させ、一連の流れの必要性を理解させる。</li> <li>・公式に当てはめられるように、計算したいことをはっきりさせて、問題を解決させることで公式の意味を理解させる。</li> <li>・スキルアップのために難しい問題も同時に出し、学習意欲を高められるようにする。</li> <li>・算数的思考を活用し、問題に対する自分の考えを多く考え、理由を付けられるようにする。</li> </ul>

6	国語	<p>調教科の正答率は、全国平均とほぼ同じ正答率となっている。「言語の特徴の使い方」「言語文化」など、言語の使い方では、正答率が全国平均を下回っている。「読むこと」では、全国の正答率を7ポイント上回っている。</p> <p>学学習中で自分の意見を主張し、相手に納得させる力が不足している。</p> <p>学漢字の理解や定着に時間がかかる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人の話を聞き、正しく理解しながら自分の考えをもつ指導の必要がある。</li> <li>自分の主張をはっきりさせ、文の構成を考え、その理由や裏付ける事例を記述できるよう指導する必要がある。</li> <li>言語に対する知識を増やし、読解力を高めていく。</li> <li>普段から学習した漢字を使うようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書に関連する本の併読などできる環境を整え、文を読み理解する機会を増やす。</li> <li>毎時間の授業の振り返りの記述や、毎週の作文（家庭学習）の取り組みを細かく教員が添削し、指導する。</li> <li>学習中、児童がたくさんの言語や漢字に触れられ、語彙が増えるよう意識する。</li> <li>デジタルドリルを毎日の課題に取り入れる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>併読することで、作者の思いや考え方が理解できる力が付いてきた。しかし、読書に対する姿勢が影響してしまうため、新たな課題が出てきた。</li> <li>添削することを繰り返した。ただそこから学習して次に活かすまではまだいかない児童がいるため、継続して指導が必要である。</li> <li>デジタルドリルに併用して漢字ドリルを使用したことで、定着が見られた。</li> </ul>
	算数	<p>調教科の正答率は、約7ポイント全国の正答率を上回り、「データの活用」では、13ポイント上回る。</p> <p>学計算はできるが、立式の理由など、答えにたどりつくまでの思考力が弱い。</p> <p>学教えられた公式を使って問題を解くことは容易だと考える子が多い。どうしてその方法になるかを考えることが苦手な児童がいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>立式の際に、書かれた数が何を表しているのかを考えさせるようにする。</li> <li>問題解決の方法を教えられて学ぶのではなく、既習事項などから、自主的、主体的に考える習慣を付ける必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業の中で、必ず自分の考えとその理由を書くようにする。</li> <li>課題を解決するために、自分で考える時間、考えを記述したり、発表したりする時間を十分にとり評価する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えをもたせること、伝え合い、より分かりやすく解きやすいものを見付ける指導を繰り返したが、個人の差がとても大きい。グループ学習等をさらに増やす必要がある。</li> <li>発表する児童に偏りがあることと、発表時間を多くとると、学習を活かす時間が短くなってしまふことなどの課題が見られたが、児童の達成感や充実感を得ることができた。</li> </ul>
音楽	<p>学どの学年も進んで音楽活動に取り組める児童が多い。</p> <p>歌唱…発達段階に応じてのびのびと歌っている児童が多いが、曲想に合った歌い方を工夫して表現することが十分でない。</p> <p>器楽…技能面に個人差がある。繰り返しできるまで練習することが苦手。音色を意識して演奏することが十分でない。</p> <p>音楽づくり…グループでの創作活動に、進んで取り組める児童が多い。音楽のしくみや構成を考えてつくるのが難しい。</p> <p>鑑賞…楽しんで鑑賞をしている。〔共通事項〕などを手掛かりにして聴き取ろうとしている。</p>	<p>歌唱…曲想に合わせて歌い方の工夫をすることがまだ十分でない。</p> <p>器楽…個人差がある。演奏を工夫するための技能が十分でない。繰り返し練習が苦手な児童が多い。</p> <p>音楽づくり…音楽のしくみや構成などを考えて音楽をつくるのが難しい。</p> <p>鑑賞…〔共通事項〕を手掛かりとして聴き取れることはできるが、楽曲全体を味わって聴くところまで至っていない児童が多い。言葉での表現が難しい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>思いをもてるようにするために、曲の雰囲気や特徴に気づき、感じ取らせるような言葉かけの工夫をする。</li> <li>個人練習の時間をとり、一人一人の到達状況を把握して支援する。</li> <li>〔共通事項〕など視覚的に確認できるように教室に掲示する。</li> </ul> <p>ワークシートに聴き取ったことや感じ取ったことをメモできるようにし、学習のまとめの際に、楽曲全体を通した感想または、紹介文を書けるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>音楽会に向けて、聴いている人を意識した演奏ができるように、動画を撮って実際に自分たちの演奏を確認して、意識付けをする。</li> <li>担任と連携をとり、空き時間には教室に入り、個別に支援が必要な児童へ学習支援等する。</li> </ul>	
図工	<p>学平面作品に比べ、立体や工作に表すことに意欲的な児童が多い。</p> <p>学絵の具の濃淡や筆使いなど基本的な使い方の習得が必要である。</p> <p>学自分の作品に向き合い、よりいいものを目指すような粘り強さをもつ児童が多くない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>形をとることや絵の具への苦手意識が平面への苦手意識につながっている。</li> <li>作品づくりの構想段階で課題をもつ子、深める段階で課題をもつ子と学年に応じた課題がある。</li> <li>抽象的な物事を絵や立体に表すことを苦手とする児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>形をとる経験も必要だが、色彩を楽しむ活動を各学年計画する。</li> <li>発想を広げるために、タブレット端末を活用する。具体的には友達のと比較して考えさせるために活用したり、全体を投影し、作品鑑賞したりする活動に取り入れる。</li> <li>抽象表現は、言葉から広げて色彩や形に意味を感じさせてみる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>構想段階での自分の思いを表現することに課題がみられたが、制作を重ねる毎に、児童の表現する喜びや達成感を得ることができた。</li> <li>色や形を工夫して表現したり、楽しみながら表現方法を試行錯誤して取り組んだりするよう促すことができた。</li> </ul>	
特支					

調…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況      学…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト、デジタルドリル等から見える学習の状況      ※分量は2ページ以上となってもよい。